

火の国阿蘇の 恵みのブランド

とどろく雷鳴、つづいて地を切り裂くかという稲妻の矢。 とどろく雷鳴、つづいて地を切り裂くかという稲妻の矢。 一条の竜巻が上がり、天涯へまっしぐらに昇っていく。 と、あとには息をのむ深い静寂。ふと見ると堅固な巨石が割れており、 その裂け目から大きな白蛇が姿をあらわした。 これが、千五百年前から赤水村に伝わるという蛇石伝説です。 「参道を歩くと、身も心も吸いこまれるような……」 粛然たる気分に包まれる、と日田政次さんは言います。 歴史は嘘つかん。

その風情を大事に守っていくだけです。長く自然のなかに溶けこんできた、世話をするといっても神社を飾りたてる演出などはしない。

「帰りはとても晴れやかな顔でね」

人生の道に迷ったひとが多く訪ねてきます。

白蛇は弁財天の化身といわれるが、商売繁盛の願いばかりでなく、

財産管理組合長として、聖地・蛇石神社の世話を欠かさない。

赤水財産管理組合 日田政次

人と自然が共作する阿蘇。あるがまま、という貴さ。